

周波数ひっ迫対策技術試験事務 平成26年度継続評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
400MHz帯災害対策用可搬型無線システムの周波数有効利用技術に関する検討	H25～27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型無線装置のシステム諸元の決定、技術要件/技術基準の導出、フィールド試験による回線品質の確認などの主要項目は達成されていると思われる。</li> <li>・送信機の動作レベルの確認(バックオフレベル)をもっと早い段階ですべきであったと思われるが、全体としては計画通りの進捗であり、技術基準策定に寄与するであろう。</li> <li>・次年度計画の内容、特に自他システムとの干渉検討の内容が具体的でない。定めるべき技術基準から、どのように実験すべきかをもう少し明確にすべき。</li> </ul>	3.6
多様なセンサー無線システムの周波数共用技術に関する検討	H25～26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期間に多くの実験を行い、また、検討項目毎にきちんとまとめがなされていることから、十分に目標を達成していると判断される。</li> <li>・各センサともに利用シーンを具体的に示し、それに合った測定をすること。社会インフラモニタ、農業などの分野での利用に役立てるとよい。</li> <li>・無線センサシステムに関わる周波数共用のための技術条件を策定することは、極めて有益性の高いものとする。シミュレーションや実証試験において、人物等の影響についての考え方、指針等が示されているとよい。</li> </ul>	4.1
狭域通信システム(DSRC)の高度化技術に関する検討	H25～27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終年度のシステム性能検証に向けて計画が検討されており、DSRCの新サービス展開を進めていく意味で有益と考えられる。</li> <li>・実用化に向けた技術基準の策定の実現につとめること。他の機器との干渉に注意すること。</li> <li>・次年度は重要な既存システムとの共存にかかわる検討で、技術基準策定のための基礎データの取得になることから、本年度同様に、うまく整理して取りまとめて頂きたい。</li> </ul>	4.3
屋内環境での電波雑音に関する調査	H24～26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内環境における電波雑音を測定するシステムの構築などの目標を達成していると考えられる。</li> <li>・近年の各種製品へのパワーエレクトロニクスの普及により屋内雑音の増大を招いている状況に対応して、ここで蓄積した知見に基づいてテスターのように素人が簡易に使える雑音試験器の製品化が望まれる。</li> <li>・偏波無依存性などを検証する必要があるが若干残っているが、総合的にみて有益な検討と思われる。</li> </ul>	3.7